

学習船「うみのこ」について

1. 新船建造について

(1) 取組経過

○入札の実施(H28-1/28)

- ・請負業者：中谷造船㈱(広島県江田島市能美町高田 3328-2)
- ・契約金額：3,051,000千円(H28=1,830,600千円・H29=1,220,400千円)
- ・契約日：H28-3/18(工期：H28-3/22～H30-3/16)

○庁内プロジェクトチームの発足(H28-4/1)

組織改編および人事異動を踏まえ、ソフト・ハード一体となった取組を進めていくため、新たにチームを編成。

(2) 詳細設計における改良点(※別添「一般配置図」参照)

請負業者において、基本設計に基づき詳細設計を進めており、関係法令に基づき審査を実施する近畿運輸局との協議の中で、多目的室(3F)の天井高の改良【240cm→300cm(+60cm)】を行った。

2. 新たな学習プログラムについて

(1) 検討経過

○新船建造協議会(H27-7/21、H28-7/14)

現場(小学校校長・主幹教諭)等と学習内容および関係機関連携について協議。

○運営懇話会(H27-9/2、11/17、H28-7/27)

学識経験者(大学教授)、校長、県民代表等と、艀装や測定機器などに関する専門的な助言や学習プログラムの広がりについて協議。

○「湖の子」新体験学習作成プロジェクト会議(H27-9/1・11/10、H28-2/9・7/28)

事前学習から事後学習を含めた探究的な学習の方向性を確認

事前学習資料作成(体験・観察・調査など)、ICT活用による交流学习や発信の必要性を確認。

○研究航海

・H27-6/19～20「ニゴロブナについて知って増やそう」

・H27-6/29～30「水草とワタカの関係について」

・H27-11/9～10「びわ湖環境学習のあり方～学習内容と学習形態の工夫～」

めあてを明確にする事前学習と体験活動、多様な体験活動をつなぐテーマ、児童が活動を選べる学習形態についての実践研究を実施。

(2) 新たな学習プログラムの方向性

①事前学習の充実を図る

課題を明確にし、解決の見通しをもたせる有効な事前学習資料（ホームページ・航海ガイド等）を作成し学校に提供。

②湖を身近に感じ、体全体で学ぶ

海洋活動としてカッター活動に加えカヌー活動の導入を検討。

③科学的にびわ湖を学ぶ（実験室の活用）

新しい機器（水中カメラ等）を使った観察や調査の導入を検討。

④地域の伝統文化・歴史から学ぶ

魚の採捕、稚魚の放流、琵琶湖の食文化等、専門家の話や実体験を通してびわ湖の漁業などの伝統文化と自分たちの生活とのつながりを学習。

⑤ICT活用で学習の充実を図る（学習室）

テレビ会議システム・船内LAN・タブレットPC・電子黒板等のICT環境を整え、学習の交流や発信、振り返りやまとめの学習に活用。

3. 今後のスケジュールについて

	新船建造	学習プログラム
H28年9月		研究航海「(仮)びわ湖を育む命」 ～魚の採捕体験・テレビ会議試行～ 第5回「湖の子」新体験学習作成プロジェクト 外会議 アンケート実施（小学校向け）
H28年10月		運営懇話会
H28年11月	起工（広島工場におけるブ ック加工開始）	
H28年12月		研究航海「(仮)体験活動につながる有 効な事前学習」
H29年2月		第6回「湖の子」新体験学習作成プロジェクト 外会議
H29年4月	(仮)びわ湖工場における組 立開始	航海ガイド原稿・ホームページ原案作成 研究航海「(仮)新プログラムの検証」(年 3回)
H29年11月	漲水（はりみず）（ドックに水を 張り込んでの艀装）	「湖の子」新体験学習作成プロジェクト 外会議 (年3回)
H30年1月	係留運転	新航海ガイド・新ホームページ完成
H30年2月	湖上運転	教員向け乗船計画研修会
H30年3月	竣工、習熟運転	学習備品新設・移設作業
H30年4月		習熟運転、教員向け研修航海
H30年5月		就航式、児童学習航海開始

BIWAKO FLOATING SCHOOL

主要目	
長さ (全長)	約 85.00 m
長さ (乗船部)	82.00 m
幅 (全)	12.00 m
幅 (甲板)	3.30 m
吃水 (最大)	1.80 m
自重 (総重量)	約 120 t
積載量	約 100 t
推進力	2台 (250馬力 × 2)
最大速度	約 8.0 ノット以上
最大乗員	200名 (25名乗客 180名)
最大積載	約 100 t (25名乗客 200名)
製造 船yard	京浜船渠 横浜 (横浜)



